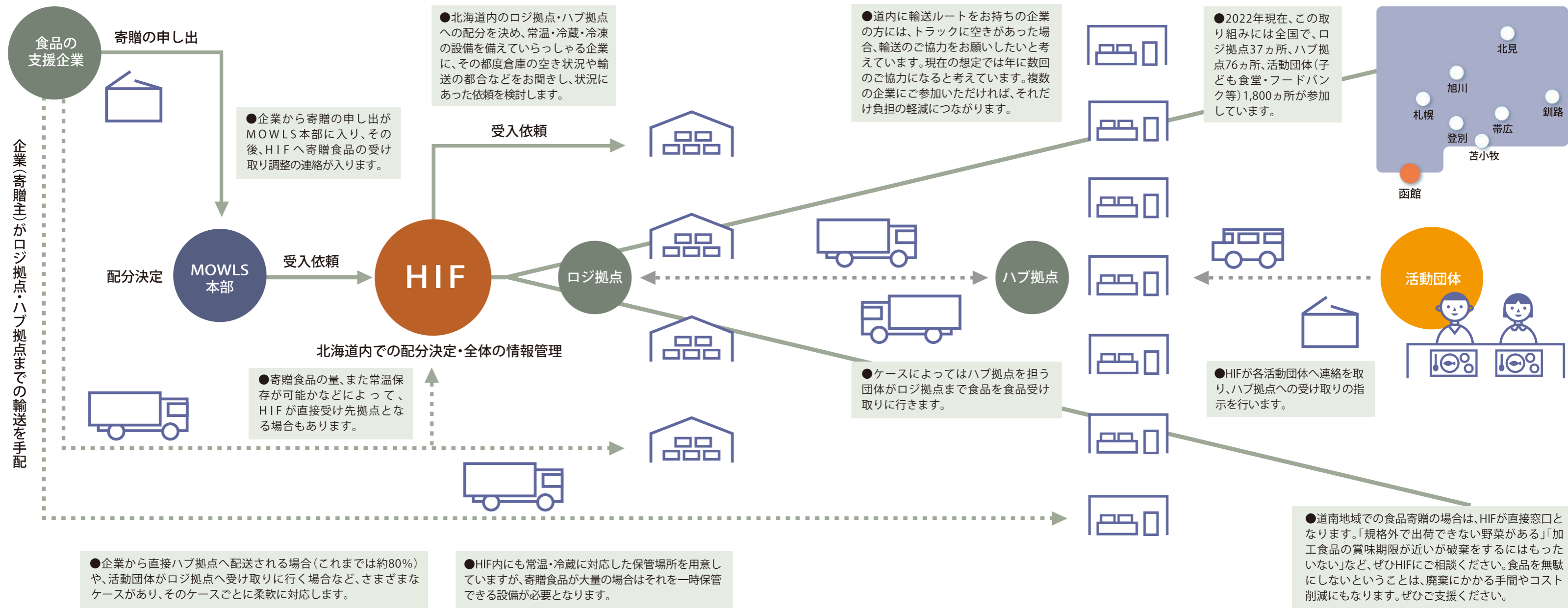


[寄贈食品が活動団体の手に届くまで]



●企業から寄贈の申し出がMOWLS本部に入り、その後、HIFへ寄贈食品の受け取り調整の連絡が入ります。

●北海道内のロジ拠点・ハブ拠点への配分を決め、常温・冷蔵・冷凍の設備を備えていらっしゃる企業に、その都度倉庫の空き状況や輸送の都合などをお聞きし、状況にあった依頼を検討します。

●道内に輸送ルートをお持ちの企業の方には、トラックに空きがあった場合、輸送のご協力をお願いしたいと考えています。現在の想定では年に数回のご協力になると考えています。複数の企業にご参加いただければ、それだけ負担の軽減につながります。

●2022年現在、この取り組みには全国で、ロジ拠点37カ所、ハブ拠点76カ所、活動団体(子ども食堂・フードバンク等)1,800カ所が参加しています。

●寄贈食品の量、また常温保存が可能かなどによって、HIFが直接受け先拠点となる場合もあります。

●ケースによってはハブ拠点を担う団体がロジ拠点まで食品を食品受け取りに行きます。

●HIFが各活動団体へ連絡を取り、ハブ拠点への受け取りの指示を行います。

●企業から直接ハブ拠点へ配送される場合(これまでは約80%)や、活動団体がロジ拠点へ受け取りに行く場合など、さまざまなケースがあり、そのケースごとに柔軟に対応します。

●HIF内にも常温・冷蔵に対応した保管場所を用意していますが、寄贈食品が大量の場合はそれを一時保管できる設備が必要となります。

●道南地域での食品寄贈の場合は、HIFが直接窓口となります。「規格外で出荷できない野菜がある」「加工食品の賞味期限が近いが破棄するにはもったいない」など、ぜひHIFにご相談ください。食品を無駄にしないということは、廃棄にかかる手間やコスト削減にもなります。ぜひご支援ください。